

I NPJ及び特別活動の充実



内容 NPJ(教育課程評価改善会議)やNPU(なないろパワーアップ会議:学級活動)等, 特別活動の充実に向けた取組及び実践

I 取組に係る本校児童の実態について

<よさ> 確実に成長している!

- ・【問題解決能力】学習内容の定着
- ・【学習意欲】褒める⇒褒められる, できることが増えた
- ・【ノート記述】家庭学習への汎用
- ・【学習規律】授業準備等, 約束は守ろうとする
- ・【元気で明るい集団】児童の個性, 特性の理解
- ・【責任感】前向きに仕事ができる⇒勤労意欲, 責任感
- ・【協働性・思いやり】道徳, NPUで学級生活改善の芽生え

「授業」を通して育まれてきた資質・能力

<課題> 活用力?読解力?〇〇力?分かりやすい子供像を

- ・【話す・聞く・対応する】コミュニケーション能力の低さ, 相手意識の欠如
- ・【読解・活用】問題や文章を読み, 理解し, 解決する
- ・【規範意識】約束が守られない⇒規範意識の低さ
- ・【人間関係の構築】ソーシャルスキル不足, 人間関係の構築
- ・【主体性】主体的に動けない⇒先生頼り
- ・【自律・継続性】粘り強くやり遂げられない
- ・【納得解】自分事として捉えられず, 正しい考えが行動につながらない

「授業」を通して育まれていない資質・能力

2 目的(取組の意義)について

- (1) 教育目標の具現化を図るため, 学校経営への参画意識を高め, 具体的取組の推進に向けた学校教育課程および学校評価案を作成し, PDCAサイクルの機能を生かしながら学校運営を推進する。(NPJ)
- (2) よりよい学級・学年を作るために他者と目的や課題を共有し課題解決に向けた自主的・実践的な態度を養う。(NPU)

3 内容について

- (1) NPJ(教育課程評価改善会議)⇒参加メンバー: 教務, 主幹教諭, 各分掌代表, 各学年代表
 - ① 力を高めあえる仲間との学級学年づくりのために
学習環境を安定させるための規範意識, 主体性, 協働性, 継続性等, 支持的風土に満ちた学級となるように, PDCAサイクルを生かした話し合いを行う。
 - ② 確かな「力」を育成するために
日々の授業や生活において, 児童の変容について, 成果や課題を交流し, 児童の短期目標となる方向性を確認する。
- (2) 拡大NPJ(教育課程編成会議)⇒参加メンバー: 全職員
 - ① 教職員全員で共通評価となることをめざして
児童の実態を全職員で共有し, 育成すべき資質・能力の明確化と具現化について対話を行う。教育活動を通じて見られる児童の変容について明らかにし, 成果や課題を評価する。また, 評価をもとに業務内容を精査整理し, 効率的な運用を図る。
- (3) NPU(なないろN パワーP アップU)会議
 - ① よりよい学級・学年づくりをめざして
各指標(相手意識・目的意識・対話力・規律遵守・判断力・目標に向かう心)の達成度をはかり, 学級で共通理解を図る。その結果を基に, より成長するための方策等, 対話を通じた解決の場を意図的に設定する。
 - ② 子どもの「力」が発揮できる学校をめざして
学校行事など全教育活動との関連をはかり, 身についた「力」を実感できる場を設定する。

4 成果・課題・今後の方向性等

- ◎それぞれの学年での実態を交流することで, 児童が身につけた力を実感することができる。また, 課題についても明確にわかるので今後の指導に役立てることができる。
- ◎児童が自分や学級を見つめ直す場ができ, 共通の目標に向かって努力を重ねることで学級の一体感が高まりが見られる。
- 学校行事が中止・延期になることが多く, 子ども達の身につけた力を発揮させる場を意図的に設定することが難しい。
- ◇学校行事に関連させることは難しいが, 学年としての力を伸ばす方向で発揮できる場を設定していきたい。